

技術士 2 次試験に合格して



守谷 圭介

(もりや けいすけ)

勤務先

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

水産研究本部 釧路水産試験場 加工利用部

〒085-0027 釧路市仲浜町 4-25

TEL 0154-24-7083 FAX 0154-24-7084

E-mail moriyak-seafoodsci@j2.gmob.jp

■ 専門：水産部門(水産食品及び流通)

1. 自己紹介

私は 1991 年に愛知県名古屋市で生まれ、その後、高校まで埼玉県さいたま市・所沢市で過ごしました。海なし県で思春期を過ごした反動のためか、海や水産物に興味を持ち、山口県下関市にある水産大学校に入学し、水産食品科学の基礎を学びました。そして、水産食品科学に関する研究を通して深く学びたいと強く思い、縁あって東京海洋大学大学院に進学し、高鮮度冷凍マサバの解凍方法に関する研究を 2 年間取り組みました。博士前期課程修了後、運良く現在の職場である北海道立総合研究機構(道総研)に就職することができ、マイワシ・サバ類の高品質な生食用冷凍商材の開発やトキシラズの目利きに関する研究など、水産加工利用に関する試験研究を幅広く行っています。

2. 受験の動機

母校の水産大学校が JABEE 認定を受けているため、技術士については大学生の時から耳にしていたが、正直に申すと、当時は JABEE や技術士について全く興味ありませんでした。技術士について興味を持ち始めたのは、道総研から内定を頂いた後からで、大学院生の時に何名かの公設試験研究機関の方々から頂いた名刺に“技術士(水産部門)”という肩書きが書かれているのを目にし、「公設試験研究機関の研究職員には必要な資格なのかな」と思うようになりました。そして就職してから、技術士取得をより考えるようになりました。技術士受験時、私以外の釧路水産試験場加工利用部の職員は、私の次に若い職員でも勤務年数が 20 年を超える大ベテランばかりで、経験豊富で地域からの信用を得ています。一方、私は勤務年数が 3 年で、他の職員より経験が圧倒的に浅く、若輩者で頼りないのではないかと感じていました。そこで、1 日でも早くこの大

きな差を少しでも埋めるためには、試験研究の成果に加え、高度な専門知識が備えていることを国家に認定された証である技術士の取得が必要と考え、令和元年度技術士二次試験を受験することを決意しました。

3. 二次試験

受験を決意した時、技術士二次試験に関して全く知らなかったので、受験申込み案内、過去問や試験に関連するウェブサイトをつまみ読みました。すると、試験方法の改定により、令和元年度技術士二次試験から筆記試験は記述式がメインになることを知りました。そこで、試験勉強は今まで習ったことや経験したことを復習する、または整理することに絞ってやりました。そして、試験 1 週間前から記述式の過去問に取り組み、問題に慣れるようにしました。パツと書きたいことがまとまらない過去問があったら、ノートにメモ書きして整理してました。本番の試験は、少しだけ解答に悩んだところもありましたが、なんとか筆記試験をパスすることができました。口述試験は、筆記試験突破後、本屋で参考書を購入して技術士法や技術者倫理について勉強して試験対策をたてました。本番の試験はかなり緊張してしまい、思っていたよりもうまくしゃべれませんでした。結果は“合格”でした。

4. 技術士取得後

技術士を取得しましたが、大きな差が少しでも埋まった実感はありませんでした。しかし、技術士取得後の仕事の出来にかかっていると今は思っています。これまで以上に自己研鑽をし、技術士の資格を持った道総研の研究職員として、北海道水産業に貢献していく所存です。最後に、受験に際しご協力頂いた職場の皆様やこれまでご指導して下さいました沢山の方々に、心より感謝致します。